

平成30年度上半期（4月～9月）

評価区分	今回評価結果
A：順調に進んでいる。	33事業
B：おおむね進んでいる。	31事業
C：進捗が遅れている。	1事業
D：取組内容の見直しが必要。	0事業

上士幌町総合戦略施策検証シート

（平成30年10月1日現在）

1 地場産業で地域の活力を生み出すまち	P 1
2 子育て・教育の充実したまち	P 8
3 健康で安心して暮らせるまち	P 19
4 移住定住による人口減少をくい止めるまち	P 24
5 小さな拠点形成を目指すまち	P 27
プラス・ワン 上士幌町創生包括プロジェクト 上士幌版生涯活躍のまち	P 30

1 地場産業で地域の活力を生み出すまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(30年9月末)
雇用充足	59人（H27調査）	59人	
新規雇用創出人数	—	30人	27人 / 90.0%

◇移住施策と連携した地場産業の人材不足解消

KPI

無料職業紹介所の相談件数	300件	達成度(30年9月末) 305件 / 101.7%
--------------	------	---------------------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容（H30年度）	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇無料職業紹介所の開設 雇用確保への対策として、町内の雇用情報をとりまとめて広く発信。移住・定住の流れを生み出す可能性を高める	相談件数 300件	305件 (求人173 求職132) 101.7% 採用 3名	・WEBサイト等による情報発信を随時行うとともに、電話及びメールによる求人・求職者とのジョブマッチングを実施。 ・(株)生涯活躍のまち かみしほろと連携して職業紹介業務を推進する。	A	(進捗状況) ・(株)生涯活躍のまち かみしほろと連携し約50社の登録事業所を訪問。求人情報の確認と合わせて、町との「職業紹介業務の提携」について内容を説明し同意を得た。連携により細かな対応や、情報提供が図られている。 (課題) 求職相談数が少なく、幅広い業種の求人を事業所に紹介できない。	町民課
◇重点道の駅「仮称パルーン」整備	新規雇用者数 15人	—	・道の駅実施設計の実施 ・ナイト高原牧場レストハウス建設 ・各施設運営主体の設立	A	(進捗状況) ・平成29年度の道の駅基本設計に基づき、実施設計を実施している。テナント募集を実施しており、設計に反映させる。今後、道の駅等整備推進委員会や町民説明会を開催する。 ・ナイト高原牧場レストハウスは建設工事中である。施設名称を「ナイトテラス」とし、平成31年4月27日先行オープン、6月3日全面オープンの宣伝活動を実施している。 ・各施設の運営主体である「上士幌町観光地域商社 (株)karch (カチ)」を平成30年5月に設立した。道の駅実施設計への意見反映やナイトテラス運営準備を行っている。(株)karchは、平成30年7月に旅行代理業登録を完了し、電力小売り販売許可を申請中である。	商工観光課

					(課題) ・町民をはじめ、関係機関、団体、事業者から様々な意見を頂きながら推進する必要がある。
--	--	--	--	--	--

◇農林業の活力向上

KPI

農業生産法人数（H26年4月現在19件）	新規2件	達成度(30年9月末)	1件 / 50.0%
新規就農・新規雇用の青年等	10人	達成度(30年9月末)	3人 / 30.0%
青年等就農計画（平成27年4月現在2件）	新規3件	達成度(30年9月末)	2件 / 66.7%
農業後継者の有配偶率	増加		—
上士幌町農商工連携補助事業によって商品化した件数	2件/年	達成度(30年9月末)	4件 / 200.0%
バイオマスエネルギー地域利活用（農業：家畜糞尿、林業：木質チップ）	新規3件	達成度(30年9月末)	3件 / 100.0%

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容（H30年度）	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇新規就農対策事業 本町の主要産業である農業の新規就農対策を推進し、農家戸数と農業者の確保を図る	新規就農人数 3件5人	新規就農人数 2件3人	・電話等による相談について随時対応	B	(進捗状況) 関係機関と連携し、新規就農に向けた情報の共有を図っている。 (課題) 新規就農に繋がる情報の収集。	農林課
◇家畜糞尿処理バイオガスプラントの導入による家畜糞尿処理対策への支援 ◇畜産業の大型化に伴う家畜糞尿処理対策と発生するバイオガスエネルギーの利活用	バイオガスプラント整備 3か所に対する支援 新規雇用人数10名	バイオガスプラント 整備済 3か所 新規雇用人数10名	・バイオガスの利活用に向けた調査、研究	A	(進捗状況) バイオガスの導管敷設による遠隔地利用に向け、先進地視察等、調査、研究を進めている。 (課題) バイオガスを活用した新規事業の創出。	農林課
◇農業におけるアウトソーシング化への支援 地域農業の効率性・収益性向上と労働力の軽減	新規哺育事業への支援 新規雇用人数 6名		・育成施設の整備に向けた準備及び支援の検討	B	(進捗状況) 用地の取得及び補助事業の申請に向け作業を進めている。 (課題) 施設整備内容の精査及び育成預託事業計画の精査。	農林課
◇家庭形成に向けた出合いの機会創出支援（農業後継者）			・北海道十勝農業青年との交流会（音更・鹿追・士幌・上士幌の4町実行委員会主催による本州女性との交流会）の開催（11月23～24日十勝管内で開催予定） ・上士幌町農業青年婚活交流会（JA青年部と札幌近郊の女性との交流会）の開催（12月7日予定）	B	(課題) ・参加する青年の確保が難しい状況になっている。	農業委員会事務局

			<ul style="list-style-type: none"> ・上士幌町農業青年婚活交流会（JA青年部と十勝管内の女性との交流会）の開催（1月12日予定） ・ALLとかち札幌交流会の開催（清水、池田、陸別、音更、士幌、上士幌の6町実行委員会主催による札幌近郊の女性との交流会）の開催（1月26日予定） 			
◇森林整備計画の推進			<ul style="list-style-type: none"> ・森林経営計画に沿った森林整備の推進 	B	<p>（進捗状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正な森林整備を実施している。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林経営計画に未参画の山林において、伐採後に植栽されてない林地や町外に住む森林所有者の山林が放置されている実態がある。 	農林課

◇建設業の活力向上

KPI

建設業における求人	充足	達成度(30年9月末)
-----------	----	-------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容（H30年度）	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇社会資本整備の充実		H30年度予定事業の進捗率は70%	<ul style="list-style-type: none"> ・道路改良舗装事業 3路線 ・道路舗装補修事業 3地区 ・市街地歩道補修事業 1路線 ・水道施設改良事業（配水管移設） 	B	<p>（進捗状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路改良舗装事業～まちなか住宅道路改良舗装工事7月完了、1区北6号線道路改良舗装工事については12月完了予定、本町環状線道路改良舗装工事についても12月完了予定。 ・道路舗装補修事業～郊外の主要町道の舗装補修については3地区に分けて工事を行い8月に完了。 ・市街地歩道補修事業～わか西側の歩道の改修を実施し9月に完了。 ・水道施設改良事業～東部地区配水管移設工事完了。 	建設課
◇インフラの維持管理事業の推進		H30年度予定事業の進捗率は70%	<ul style="list-style-type: none"> ・橋梁長寿命化修繕事業 2橋 ・道路舗装補修事業 3地区 ・道路橋梁災害復旧事業（萩ヶ岡橋） ・町道等維持管理事業（機械除草、路面整正、道路側溝等清掃） ・公共下水道事業（下水道長寿命化計画に基づき施設改修） ・水道施設事業（浄水場機器修繕及び配水管更新） 	B	<p>（進捗状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁長寿命化修繕事業～幌加橋及び上多橋修繕12月完了予定。 ・道路舗装補修事業～郊外3地区8月完了。 ・道路橋梁災害復旧事業～萩ヶ岡橋8月に復旧完了。 ・町道維持管理事業～現在実施中。 ・公共下水道事業～汚泥脱水施設更新工 	建設課

					事3月完了予定。 ・水道施設改良事業～東部地区配水管更新工事完了、浄水場施設機器修繕工事1月完了予定。	
◇建設業における人材育成に対する支援			・季節労働者の失業期間中の就労対策として、道路側溝、明渠排水路等の雑木処理作業を実施 ・無料職業紹介所事業による支援	B	(進捗状況) ・季節労働者の就労対策を実施 雇用者数 30名 作業日数 9日間 (課題) ・通年雇用化には結びついていない。	町民課

◇商工業の活力向上

KPI

空き店舗等における新規開業や新たな利用	5件	達成度(30年9月末) 3件 / 60.0%
新規商品開発件数(H26 4件)	延べ20件	達成度(30年9月末) 10件 / 50.0%

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容(H30年度)	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇商工業者に対する資金支援			・上土幌町中小企業融資条例に基づき、資金支援を行う。	A	(進捗状況) ・上期(4-9月)利用実績 4件、45,230千円の融資。 (運転資金1件、設備投資3件) ・前年同期実績(13件、50,030千円)比較で、融資額は前年並み。 (課題) ・商工業者の経営の安定化を継続的に支援していく必要がある。 ・きめ細やかな資金融資対応をするため、特別小口保険及び小口零細企業の保証限度額を拡大する制度改正を検討する。	商工観光課
◇商店街活性化支援			・商店街の活性化を図るため「商店街賑わい事業」へ支援する。	A	(進捗状況) ・中元大売出し事業(10%還元セール)実績 売出期間:7月23日~8月6日 (8/3予定数終了) 売上総額:51,219千円 (目標額 50,000千円) 交換者数:1,092人 【今後の予定事業】 ・歳末売り出し事業、新春大売出し事業、 新春運だめしサイコロゲーム事業 (課題)	商工観光課

					<ul style="list-style-type: none"> ・「商店街賑わい事業」の内容の工夫を図りつつ、継続的に支援する必要がある。 ・北海道胆振東部地震（停電含む）の被害が大きいことから、売上向上に繋がる対応を行う必要がある。 	
◇起業支援及び空き店舗対策の推進			<ul style="list-style-type: none"> ・起業希望者に対して、創業支援促進事業や町中小企業融資制度により支援を行う。 ・ふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングにより「起業家支援プロジェクト」を開始し、支援いただいた寄附者に、オープンするお店の食事券のインセンティブをつけ、起業を支援する。 	A	<p>(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創業支援促進事業による支援は、上半期2件の申請があり、開業準備が進められている。(①リサイクル店、②そば屋・バー) ・クラウドファンディング型ふるさと納税により起業家支援プロジェクトに242件、3,145千円の寄附が寄せられた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会と連携して広報等により制度の周知を行う必要がある。 ・寄附者に対する進捗状況の報告を行い、開店後に来町、来店いただけるPR手法を検討する。 	企画財政課 商工観光課
◇商工業者の後継者育成・雇用確保			<ul style="list-style-type: none"> ・創業支援促進事業や町中小企業融資制度により資金支援を実施し雇用確保を図る。 ・H29に商工会が実施した事業者アンケートをもとに、商店等の事業承継や空き店舗対策などの検討をし、商店街振興のための計画を支援する。 	A	<p>(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創業支援促進事業による支援は、上半期2件の申請があり、5名の雇用拡大が見込まれる。 ・商店街振興計画策定は、商工会が主体となり検討組織の設立準備を行っており、町も協議に参画して支援する。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工会と連携して広報等により制度の周知を行う必要がある。 ・町民生活を守るため、商店街のあり方を検討し、事業承継に向けた新たな施策の検討が必要となっている。 	商工観光課
◇地域資源を活用した商品開発			<ul style="list-style-type: none"> ・「道の駅」「ナイトテラス」等で販売する商品、サービスの開発を行う。 ・地域資源を活用した新商品の開発を促す農林商工等連携・ビジネス創出促進事業により、事業者への支援を行う。 	A	<p>(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅等で販売する新商品開発は実行委員会を設立し、検討を進めている。 ・農林商工等連携・ビジネス創出促進事業による支援は、上半期2件の申請があり商品開発や調査が行われている。(ソト・ハート事業各1件) <p>(課題)</p>	商工観光課

					<ul style="list-style-type: none"> ・新たに地域資源を活用した新商品の開発を行う人や事業者を発掘していく必要がある。 ・道の駅等のオープンに向けて、年間10商品を目標に、多様な商品を開発していくことが必要となっている。
--	--	--	--	--	--

◇観光産業の活力向上

KPI

観光入込数：H26年360千人	415千人（15%増）	達成度	439.0千人 / 105.8% ※H29年度末
-----------------	-------------	-----	--------------------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容（H30年度）	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇インターネット不感地帯の解消促進 ・インバウンド等観光客誘客に求められる高度情報網整備			<ul style="list-style-type: none"> ・「道の駅」「ナイトテラス」でのWi-Fi環境の整備を行う。 ・農村地域における光回線の整備に向けた、調査・設計を行う。 ・既存FWA（無線通信網）の回線増強工事を行う。 	B	（進捗状況） ・ナイトテラスはWi-Fi環境備えて建設中である。道の駅は実施設計に反映させており、整備する予定である。 （課題） ・ぬかびら源泉郷以北の携帯電話不感地帯については、一部キャリアにおいて解消の見込みであるが、農村地域の光回線整備と併せて、引き続き検討を行う。	商工観光課 企画財政課
◇インバウンドを含む観光客誘致 ・外国人観光客の受け入れ環境整備、効果的な観光プロモーションの展開、情報発信の強化 ・滞在・体験型観光プログラムの開発、担い手となる人材の育成 ・老朽化した観光施設等のユニバーサルデザインに配慮した再整備	観光客入り込み数 360千人（H26）→ 415千人（H31） 15%増	平成29年度末 439.0千人 前年度比 122.3% （平成28年度末） 359.1千人 ※平成30年上期 未発表	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドを含む観光客誘致（プロモーション、体験観光）。 ・本町の観光を、戦略的に推進するため「上士幌町観光基本計画」を策定。 ・上士幌町観光地域商社が観光庁「日本版DMO候補法人」の登録を目指す。 	A	（進捗状況） ・北十勝4町が連携して、バンコク日本博（タイ）に参加しプロモーション活動を実施。 ・インバウンド向け観光パンフレット（3言語）を新規製作し、観光拠点への配置、イベントやプロモーション活動において配布している。 ・(株)karchは、平成30年7月に旅行代理業登録を完了し、インバウンド滞在プラン検討のため、モニターツアーを実施。 ・体験観光としては、9月～10月に「上士幌体験マルシェ」を実施。また、5月よりレンタサイクル実施。 ・観光基本計画策定に向け策定委員会及びワーキンググループを設置し、検討を進めている。年内に中間報告を作成予定。 ・(株)karchの日本版DMO候補法人登録について、観光基本計画策定の進捗に合わ	商工観光課

					<p>せ今年度中の登録を目指す。 (課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光基本計画策定では、町観光協会をはじめ各種団体・機関・事業者の協力と上士幌町観光地域商社の稼ぐ力を背景とした検討、取り組みが必要となる。
--	--	--	--	--	--

◇企業誘致

KPI

新規雇用者数	30人増加	達成度(30年9月末)	27人 / 90.0%
--------	-------	-------------	-------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容(H30年度)	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇企業誘致対策事業	新規雇用者数 30人	22人	<ul style="list-style-type: none"> ・H28年度に製造工場の稼働を開始した十勝製菓(株)、サテライトオフィスを誘致した(株)トラストバンクに対し、無料職業紹介所と連携し、人材確保への支援を行う。 ・十勝製菓(株)の開発する新商品に対し、ふるさと納税推進事業と連携して、販路拡大に努める。 	A	<p>(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H29年度に設立した「(株)生涯活躍のまち かみしほろ」において職員3名が雇用されている。 ・H30年度に設立した「上士幌町観光地域商社(株)karch」には、2名が雇用(出資会社より派遣)されている。 ・8/14付で株式会社WH○○D設立 ・従業員4名(うち役員2名) ・「起業家支援プロジェクト」の対象第1号となった、(株)WH○○Dは飲食店経営において上士幌町の特産物や資源を活用する他、今後は首都圏や全国に発信する意向のため、地元の事業者や各団体との連携を支援する。 	企画財政課

◇地産品の消費拡大

KPI

特産品のレシピ開発	30品	達成度(30年9月末)	29品 / 96.7%
-----------	-----	-------------	-------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容(H30年度)	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇ふるさと納税特産品消費拡大プロモーション	レシピ開発 30品	29品	・引き続き、新たなレシピ開発を進める。	A		企画財政課

2 子育て・教育の充実したまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(30年9月末)
合計特殊出生率	1.61	1.90	H25～29の数値に基づきH31公表予定
学力・体力・体験		北海道トップレベル	

◇子育て世帯における経済的支援の一体的実施

KPI

子育てしやすいと感じる人の割合47.1%（H27アンケート調査）	増加	達成度(30年9月末)	—
認定こども園における待機人数（H27ゼロ）	維持	達成度(30年9月末)	維持

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容（H30年度）	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇高校生世代までの医療費の無料化			<ul style="list-style-type: none"> 子ども医療費助成事業受給者数 661名 (うち高校生91名) 子ども医療費助成額 7,068千円 (うち高校生823千円) 	A	(進捗状況) 子育て世帯への経済支援により子育ての不安解消につながっている。	保健福祉課
◇教育に係る保護者負担の軽減 ○幼児に係る保育・教育費の保護者負担の軽減 ・2km以上の遠距離通園者への補助 ○児童・生徒に係る教育費の保護者負担の軽減 ・就学援助 ・補助教材補助	保育料無料化 修学旅行経費の助成	保育料無料化実施 修学旅行経費の助成実施	<ul style="list-style-type: none"> 認定こども園の保育料無料化の実施。 認定こども園までの往復の距離×2回×20円×通園日数分の補助を実施 交付人数 28名 就学援助（学用品費・給食費・新入学児童生徒学用品費・PTA会費・体育実技費・修学旅行費等）の実施 交付人数 小学生45名 中学生22名 就学援助（新入学児童生徒学用品費）の新入学児童生徒への早期交付 申請に基づき12月支給予定 補助教材補助 小中学校児童生徒一人あたり2,000円分を各学校に配当 小学生240名 中学校132名 修学旅行経費の約1/2を助成 	A	(進捗状況) ・無料化等により利用児童が増えたため、施設が手狭になり、山開センター和室を保育室に改修し分室とした。(H30.4月) ・小学1年及び中学1年に対する就学援助（新入学児童生徒学用品費）については、これまで入学後に支給していたが、保護者の負担軽減のため、入学前年の12月に支給することとした。 ・今年度より、修学旅行経費の約1/2を助成し、保護者の負担軽減を図った。 小学生 11,000円×42名 中学生 33,000円×36名	幼児教育課 教育推進課
◇子育て支援・少子化対策建設助成金交付事業		H30年度予算に対する進捗率41%	・(想定)新築住宅、中古住宅 19,500千円	B	(進捗状況) 現時点の実績 ・新築住宅 4件 7,000千円 対象こども 7名 ・中古住宅 1件 1,000千円 対象こども 2名	建設課

◇出産や子育てにおける安心の確保

K P I

育児短時間勤務を導入している事業所数	増加	達成度(30年9月末)
--------------------	----	-------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容(H30年度)	評価	進捗状況及び課題	担当課等
育児短時間勤務の推進			・(株)生涯活躍のまち かみしほると合同での、登録事業所訪問の際、育児短時間勤務等の制度PRと、情報収集のためアンケート調査を実施。	B	(進捗状況) ・登録事業所34社を訪問した。子育て等の制度はないが「休みやすい環境づくりや、職場内の協力体制をとっている」と回答している事業所も多かった。	町民課
地域で育む子育てサロンの開設			・認定こども園内に設置している「子育て支援センター」において、次の事業を実施 1. 親と子が安心して過ごせる居場所として、子育てに向き合うゆとりと自信を高める場の提供 <すくすく広場> 毎週月曜日 対象 0～2歳誕生日までの子どもと保護者・妊婦 <なかよし広場> 毎週月・水・金曜日 対象 0歳～就学前の子どもと保護者 2. 親子で取り組める製作や音楽リズム、外遊び等の提供 <なかよしチャレンジ> 月1回 第2金曜日 対象 0歳～就学前の子どもと保護者 3. 妊婦同士や地域との交流の場・機会の提供により母親の孤立を防ぎ、出産後の育児不安の解消を図る <マミーズ広場> 毎月第1木曜日・第3金曜日 対象 妊婦 4. 同月齢の子どもを持つ母親同士や妊婦同士の交流、子育て相談や情報提供などの機会の提供により孤立を防ぎ、育児負担の軽減を図る <ベビーズ広場> 毎週木曜日 対象 0～1歳誕生日までの親子(第1子)・妊婦 5. 集団での利用が苦手な親子を対象に、個人または少人数で利用できる場の提供 <ちいさな広場> 毎週火・木曜日 対象 0歳～就学前までの子どもと保護者 6. 育児サークルの場に職員が出向き、育児相談や遊びの提供をして、子育てを通した仲間作りの応援をする <子育てサークル支援> 月1回 第2火曜日 7. 来所時及び電話により子育てに関する様々相談に対し、育児不安の解消を図る	B	(進捗状況) ・保育料無料化に伴い、認定こども園に入園する児童が増加し、子育て支援センター利用者が減少傾向にあるが、遊びの広場の時間延長により、利用しやすいような事業設定に変更している。 ・上半期施設利用実績(延べ人数) 大人 598名(去年同期 626名) 子ども 691名(去年同期 808名) 計 1,289名(去年同期 1,434名) (課題) ・認定こども園・保健師・子ども発達支援センターが連携を図り、要支援の児童や保護者への継続した支援を充実させていく必要がある。 ・<ちいさな広場>については参加者がいないこともある。	幼児教育課

			<p><子育て相談> 毎週月～金曜日</p> <p>8. あそびの広場に認定こども園栄養士が出向き、子どもの食事に関する不安・疑問を軽減する</p> <p><栄養相談・栄養講話></p> <p>栄養相談 2回 ・栄養講話 1回</p> <p>9. 認定こども園の給食やおやつを試食により、乳幼児期に適した食事やおやつの味・量などの理解を深める</p> <p><ほろんランチ> 年3回</p> <p><ほろんおやつ> 年2回</p> <p>10. 子育てに関する知識を学び、育児不安の軽減を図る</p> <p>子育て講演の開催</p> <p><子育て講演会> 2回実施</p> <p><子育て講座> 1回実施</p> <p>11. 未就学年齢の子どもを持つ親子に、認定こども園の雰囲気やあそび、生活などの体験をしてもらう</p> <p><認定こども園開放日></p> <p>年11回</p> <p>12. 育児疲れの解消、急病や就労形態の多様化などに伴う一時的な保育に対する需要に対応する為、一時的な保育を実施することにより児童の福祉の増進を図る</p> <p><一時保育>月～金曜日</p> <p>対象 1歳～就学前の子ども</p> <p>13. 少子化・核家族化が進む中、仕事と育児の両立の為、地域において会員同士が育児に関する相互援助活動を行う事を支援する</p> <p>・安心して子育てができる環境づくり及び児童福祉の向上を図る</p> <p><子育てサポート事業></p> <p>会員の登録制（依頼会員・協力会員・両方会員）</p> <p>料金 30分300円（町より半額の助成）</p>		
病児・病後児保育事業の検討			<p>・病児・病後児保育を実施する管内の保育園、小児科医院の視察等を実施する。</p> <p>・町内医療関係者と連携し、管内で病児・病後児保育実施箇所の視察、調査を実施し、具体的な検討を進める。</p>	<p>B</p> <p>（進捗状況）</p> <p>・管内の病児・病後児実施施設の概要を調査済み。</p> <p>・帯広市内・音更・士幌町内の病児・病後児保育園を視察、調査（課題）</p> <p>・更に調査を実施し、本町での実施に向け、具体的な検討を進めていく。</p>	幼児教育課

◇豊かな子育てを支える質の高い学力・体力・多様な体験機会の体系化

KPI

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の平均記録（小学5年・中学2年実施）	北海道トップレベル	達成度(30年9月末) 平成30年度調査の結果は平成31年1月頃に公表予定
全国学力・学習状況調査の平均正答率	北海道トップレベル	達成度(30年9月末) 平成30年度調査の結果は11月末頃に公表予定
地域資源を生かした体験活動の推進	北海道トップレベル	達成度(30年9月末)
地元からの上高進学率 38%（H23～27平均）	50%以上	達成度(30年9月末) 15% / 30%（平成30年度入学者）

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容（H30年度）	評価	進捗状況及び課題	担当課等
<p>◇学力・体力・体験の北海道トップレベルを実現</p> <p>○上士幌町子ども教育ビジョンの具現化 ～【「かみしほろ学園構想」（仮称）の策定】</p> <p>○幼児から高校まで一貫性のある教育プログラムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通教材の開発、導入 ・地域総ぐるみのキャリア教育（一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な意欲・態度や能力を育ていく教育）支援 	<p>○全国学力・学習状況調査より（小学6年・中学3年実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や目標を持っている児童・生徒 <p>小学校 89% 中学校 68%（H22～26平均）→100%（H31）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業以外の勉強時間1時間以上の児童生徒の割合 <p>小学生 平日 43% 土日 51%（H22～26平均）→80%以上（H31）</p> <p>中学生 平日 57% 土日 59%（H22～26平均）→90%以上（H31）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を毎日食べている児童生徒の割合 <p>小学生 99% 中学生 93%（H23～26平均）→100%維持継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の平均正答率→北海道トップレベル 	<p>平成30年度全国学力・学習状況調査の集計は11月末頃に公表のため、達成度表示できず</p>	<p>組織改編を行い、かみしほろ学園を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かみしほろ学園推進本部の取組 ・連携教育部会の取組 ・研修開発部会の取組 ・教育研究・複式教育部会の取組 ・その他 	B	<p>（進捗状況）</p> <p>かみしほろ学園本部に3部会、1室を設け推進している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かみしほろ学園推進本部の取組 <p>総会、役員会（5回）、かみしほろ学園推進本部だよりの発行（4回）、吹奏楽器の購入・修繕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携教育部会の取組 <p>①漢字検定、英語検定、数学検定の実施（英検1回、漢検1回、数検1回）。</p> <p>②部活動交流</p> <p>中学校及び上士幌高校の吹奏楽部への外部講師招聘（4回）</p> <p>少年団、中学校の卓球部への、外部講師招聘（1回）</p> <p>奏楽部や卓球部などの活動で、中学校と高校、少年団と中学校の指導者同士が連携。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修開発部会の取組 <p>①自己管理手帳「iBノート」の導入と活用（認定こども園、町内小中学校、上高へ4月配付済み）。</p> <p>③子育てサポートブック「アーチ」の作成と説明・配付（認定こども園180名、上小新生入に配付の他、母子手帳配付に合わせて配付）。</p> <p>④芸術鑑賞会の実施（小学校8/31）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育研究・複式教育部会の取組 <p>①家庭学習の手引き発行（4月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他 	<p>教育推進課</p> <p>幼児教育課</p> <p>生涯学習課</p>

<p>○地域とともにある学校づくり「コミュニティ・スクール制度」の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度から導入 <p>○課外活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師等の積極的な課外活動での活用 ・少年団から高校までの課外活動の環境整備と指導者の確保 			<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール委員会・研修会の開催。 ・こども園、各小中学校の学校運営協議会の開催。 ・全国CS研修会への参加。 ・コミュニティ・スクールコーディネーターの配置。 ・コミュニティ・スクールレター「きずな」の発行。 ・「ゆめ育」応援団の募集と登録 ・各運営協議会活動の実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校及び上士幌高校の吹奏楽部への外部講師招聘 ・少年団、小中高校の卓球部への外部講師招聘 ・吹奏楽部や卓球部などの活動で、中学校と高校、少年団と中学校の指導者同士が連携。 ・子どもの夢・未来応援事業の実施。 	<p>①秋田県東成瀬村教育視察の実施 (6/24～26 8名参加)。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な教育、iBノート、サポートブック「アーチ」等の取り組みを軸に、一層、幼保小中高連携を進める。 <p>(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール委員会・研修会の開催(各1回開催)。 ・こども園、各小中学校の学校運営協議会の開催(こども園3回、糠小2回、上小3回、上中2回開催)。 ・コミュニティ・スクールコーディネーターの配置。 上士幌小学校(週2日)、上士幌中学校(週1日)に駐在し、CSレター(カレンダーを含む)の作成、学校と地域の連絡調整等を行っている。 11月からは、上士幌高校にも新たに1名を配置する予定。 ・CSレター「きずな」の発行(7回)。 ・「ゆめ育」応援団の募集と登録(現登録数 企業34、団体5、個人81) ・各学校運営協議会活動の実施。 上小、上中におけるあいさつ運動等を実施。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、学校、地域、CSコーディネーターの連携を進め、各学校運営協議会及び、「ゆめ育応援団」の活性化を図り、情報発信を行う必要がある。 <p>(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かみしほろ学園の推進、「連携教育部会の取組・部活動交流」参照。 ・子どもの夢・未来応援事業の実施(実施内容について検討中)。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課外活動における、外部講師の活用をさらに進めるとともに、少年団、中学校、
--	--	--	--	---

<p>○確かな学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数学級教諭の配置 ・ティームティーチングによる習熟度別指導の実施 ・小学校への専科教諭配置の検討 ・土曜学習の実施 ・放課後対策の充実 ・外国語活動教育の推進 ・読書の推進 			<ul style="list-style-type: none"> ・上士幌小学校2年・5年を2学級に分け、小1プロブレムの解消と児童一人ひとりと向き合える35人以下学級の実施による教育活動を推進。(少人数学級教諭2名配置) ・上士幌小学校3年生・4年生の学級に学校教育推進支援教員を各1人配置し、習熟度別指導ができるような体制整備を推進。(TT2名配置) ・体育と音楽のTTを配置し、体力向上や芸術分野における豊かな感性の育成と合わせ、各教員が子ども達一人一人と向き合える体制整備を推進。(TT2名配置) ・一部業務委託を行い実施。 ※イングリッシュゲーム、サイエンス、自然体験等 ・各小学校で「ゆめ育」応援団等と連携・協働して「放課後ほろんクラブ」を実施。 ・土曜学習(イングリッシュゲーム)を通じた英語学習の実施。 ・読書コーディネーター、司書教諭等が連携した計画的に学校図書室の整備・充実の推進。 ・認定こども園、小中学校における図書の購入。 ・中学校におけるゆめ育応援団による図書整備。 ・図書館、お話し会「カッコウ」、ゆめ育応援団等による読み聞かせの実施。 ・図書館の事業(巡回文庫、ブックスタート、図書館講演会等)の実施。 	<p>高校の連携を進める必要がある。</p> <p>(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数学級教諭や学校教育推進支援教員・専科教諭の配置による体制の整備により、きめ細かな学習・生活の指導が図られ、いじめ・不登校の問題の抑制にも繋がっている。 (進捗状況) ・一部業務委託を行い実施(2回) ※イングリッシュゲーム、郷土史学習(課題) 今後も、プログラムの充実を図るとともに、地域人材の活用を進める必要がある。 (進捗状況) ・各小学校で「ゆめ育」応援団等と連携・協働して「放課後ほろんクラブ」を実施(11回)。 ※なめこ栽培、理科実験等(課題) 今後も、体験内容の魅力化を図るとともに、地域の様々な人材と連携を進め、より充実した放課後対策を進める必要がある。 (進捗状況) ・読書コーディネーターを町内小中学校に駐在(上小週2日、上中週1日)させ、司書教諭等と連携し計画的に学校図書室の整備・充実に努めている。 ・ブックキャラバン等を実施(上小1回、上中1回)しながら、認定こども園、小中学校における図書の購入。 	
--	--	--	--	---	--

<p>○体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ環境の整備 <p>・少年団活動、部活動の活性化</p> <p>○地域資源を生かした体験活動の推進</p>	<p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査の平均記録（小学5年・中学2年実施）</p> <p>→北海道トップレベル</p>	<p>平成30年度体力・運動能力、運動習慣等調査の集計は平成31年1月頃に公表のため、達成表示できず</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの読書推進の啓発のための講演会等の実施。 ・子どもの読書アンケート調査の実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・体育施設の整備。 テニスコートの土の入替の実施。 ・各種スポーツ大会の実施。 ・各種スポーツ教室の実施。 ・スキー普及対策事業の実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・少年団体験会の実施。 ・スポーツ振興助成の実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育、学校教育、観光等の各分野において、様々 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校におけるゆめ育応援団による図書整備（毎週水・木曜実施）。 ・図書館、お話し「カッコウ」、ゆめ育応援団等による読み聞かせの実施（適宜実施）。 ・図書館の事業（巡回文庫、ブックスタート、図書館講演会等）の実施（適宜実施）。 ・子どもの読書推進の啓発のための講演会等の実施。 <p>原ゆたか先生講演会等を実施（4回）。</p> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も「上士幌町第1期子どもの読書推進計画」に基づき、地域全体で、子どもの読書推進を図る必要がある。 <p>（進捗状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後テニスコートの土入替を実施。 ・町民マラソン大会、ソフトテニス大会、水中レクリエーション祭ほか各種スポーツ大会の実施。今後、スキー及びスケート大会を実施。 ・子ども向け水泳教室、幼児体操教室の実施。今後、スキー及びスケート教室を実施。 ・スキー普及対策事業については、ぬかびら源泉郷スキー場オープン時に実施。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各施設が老朽化しており、施設整備について検討が必要である。 ・各種大会、教室の実施については、参加者のニーズの把握を行い、より参加しやすい事業実施を図る必要がある。 <p>（進捗状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少年団体験会の実施（4/22、参加者：33名）。 ・全道・全国大会への出場者に対し、参加に係る経費の一部を助成している（11件60名）。 <p>（進捗状況）</p>
---	---	--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・郷土を学ぶ体験、自然環境を生かした体験、基幹産業に触れ合う体験 ・体験活動の単位化を検討 	<p>学校（仮称）の開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活かした体験活動の体系化 ・本町の自然環境を活かした体験活動を開発 		<p>な地域資源を生かした体験活動の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験の効果を客観的に捉える I K R 調査を行い、子ども達の変化・変容を測定。 ・自然環境教育推進事業として、認定こども園、小中学校において体験学習の実施。 ・上士幌高校において地域資源を生かした「上士幌学」の教科化。 ・運営スタッフとして中高生ボランティアの参画の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かみっ子ふるさと体感塾（2回）を実施し、体験の効果を客観的に捉える I K R（生きる力）調査を行った。 ・放課後対策事業における体験プログラム等の実施。※「放課後対策の充実」参照 ・生涯学習ラリーの事業内容の充実（チーム制、商店街で体験等）を図り、地域資源を活かす体験プログラムを実施（9/22、17チーム55名参加）。 ・自然環境教育推進事業としてNPOひがし大雪自然ガイドセンターに委託し、認定こども園、小中学校において体験学習の実施。 ・上士幌高校において地域資源を生かした「上士幌学」の教科化 上士幌町及び十勝の自然、郷土史、産業、食などについて学ぶ（受講生18名、89回実施予定）。 ・ボランティアセミナーを開催（7/30）し、中高生ボランティアの参加を進めている。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の体験活動の充実と新たな体験活動の開発を進めながら、幼保小中高のつながりを意識し、発達段階に応じた体験プログラムの構築等、町全体の体験活動の体系化を進める必要がある。 	
<p>○子ども発達支援センター事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児からの適切な発達を促す取り組みの推進 ・途切れのない支援体制確立 	<p>○乳幼児からの適切な発達を促す取り組みを通じて、発達のアンバランスな子どもの軽減につなげる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・通所支援事業（児童発達支援）「にこにこ教室」 ・通所支援事業（放課後デイ）「ユースクラブ」 小学生から高校生まで ・相談支援事業実施 ・発達相談 ・関係者とのケース会議を必要に応じて開催。 ・認定こども園・小中高校への定期的な訪問の実施。 ・上士幌高校への通級指導 ・関係者向け、町民向け、子ども向け研修会の実施。 ・心理士による検査、作業療法士による指導。 ・委託事業 北斗病院による指導 ・地域開放（新事業）の実施。（6月から） 	<p>（進捗状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上半期実績（延べ件数） ①発達相談件数 81件 ②通所支援件数 623件 ③母子保健協力件数 3件 ④関係機関との連携 79回 (教育相談含む) ⑤関係者向け研修会 1回 ⑥通所支援事業親子対象事業 ヒップホップ 1回 ⑦地域開放（新事業） ・小学生以上18歳対象のスキルトレー 	

			昨年度の課題であった思春期の子どもへの取り組み（ボランティア育成・スキルトレーニング）の実施が必要ということに対して6月から実施。		<p>ニング・運動・音楽 9回</p> <p>・幼児対象の体を使った遊び場提供 3回</p> <p>（課題）</p> <p>地域開放について、今後に向けては通所支援事業所を終了した子ども達の利用も考えて回数を増加していく。わかかに来ていた思春期の子どもや通所支援事業所終了後の子ども達の居場所となるように、まだ整備が必要と考える。</p>	
<p>◇魅力ある上士幌高等学校の振興支援</p> <p>・部活動の支援による活性化</p> <p>・キャリア教育（一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な意欲・態度や能力を育てていく教育）の推進</p> <p>・学力向上、進学対策の推進</p> <p>・遠距離通学者や通学困難者の民間下宿、又は寮整備の検討</p>	<p>・地元からの上士幌高校進学率 38%（H23～27 平均）→50%以上</p> <p>・定員 80 人の入学生確保</p>	<p>・地元からの進学率 平成 30 年 15%</p> <p>・入学者数 平成 30 年 50 名</p>	<p>・平成 29 年度からの振興策の主な変更・追加点</p> <p>①通学全額補助を定額補助へ減額（H30 入学者より）</p> <p>②各種検定補助対象者を合格者のみから全員に拡大</p> <p>③講習会（公営塾）の対象者を全員に拡大</p> <p>④進学受講者の模擬試験受験料・教材費全額補助</p> <p>⑤熱気球球皮更新</p> <p>・平成 31 年度振興策の見直し</p> <p>・近隣市町村への中学校訪問による働きかけの実施</p>	B	<p>・更に魅力ある選ばれる高校としていくため、平成 31 年度振興策の見直しを決定し、地元上士幌はもとより、士幌町・音更町・帯広市の各中学校訪問を実施（2 回 7 月・9 月）。</p> <p>・公営塾（夏期無料講習）の実施 対象 上士幌高校生全員に拡大 時期 7/26～8/24 受講率 6%</p>	教育推進課
<p>◇幼児から高齢者までが互いに学び育つ生涯学習センターを活用した世代間交流の促進（H28）</p>	<p>施設年間利用者数 44,500 人（H26）</p> <p>（学童保育所・発達支援センター含）→84,500 人（H29）</p> <p>H30 以降各年 1,800 人増</p>	<p>・平成 30 年 4 月～9 月入館者数 201,177 人</p>	<p>・サークル活動や会議、講演会、カフェくれよん等の利用の促進。</p> <p>・町民の利用と世代間交流を促すための取組の推進。</p> <p>・利用環境を向上させるための駐車場整備等の施設整備の実施。</p>	A	<p>（進捗状況）</p> <p>・新生涯学習センター「わかか」におけるサークル活動や会議、講演会等の利用が進んでいる。また、カフェくれよんもメニューの改変等を行い営業している。</p> <p>・予約のない会議室等を自習等の場所として開放している。</p> <p>・「わかか」屋内外で利用できる遊具の貸出しを行っている。</p> <p>・将棋クラブや町民有志による「みんなの広場」の開催等により異世代交流が図られている。</p> <p>・「わかか」西側に 63 台分の新たな駐車場を整備した。</p> <p>（課題）</p> <p>・暑さ対策等利用環境の整備を進める必要がある。</p> <p>・今後も、町民の利用をさらに進め、異世代交流を図る必要がある。</p>	生涯学習課

◇子どもの健やかな成長支援

KPI

妊婦相談実施率	100%	達成度(30年9月末)	100.0%			
赤ちゃん訪問実施率	100%	達成度(30年9月末)	100.0%			
乳幼児健診受診率	100%	達成度(30年9月末)	100.0%			
実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容(H30年度)	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇妊婦相談(H26 100%)	100%	100%	・全ての妊婦と面談を実施	A	(進捗状況) 全ての妊婦と面談し、必要な支援を実施することができている。	保健福祉課
◇赤ちゃん訪問(H26 100%)	100%	100%	・全ての赤ちゃんと保護者に対し家庭訪問を実施	A	(進捗状況) 全ての家庭に訪問し、必要な支援を実施することができている。	保健福祉課
◇乳幼児健診(H26 98.6%)	100%	100%	・対象者全ての乳幼児健診を実施	A	(進捗状況) 対象者全員に健診を実施することができている。	保健福祉課
◇子ども発達支援センター事業の充実 ・乳幼児からの適切な発達を促す取り組みの推進 ・途切れのない支援体制確立	乳幼児からの適切な発達を促す取り組みを通じて、発達のアンバランスな子どもの軽減につなげる		「◇豊かな子育てを支える質の高い学力・体力・多様な体験機会の体系化」の「○子ども発達支援センター事業の充実」と同じ内容のため、記載省略	B		教育推進課

◇命の尊さを確認し心豊かな成長と家庭形成に向けた支援

KPI

生教育モデルに基づいた認定こども園、小学校、中学校での授業の実施率	100%(H26 100%)	達成度(30年9月末)	40.0%
学童・思春期に対する心の健康講座実施率(中学校・高校・保護者)	100%(H25 高校生実施)	達成度(30年9月末)	0.0%
20歳から39歳まで女性有配偶者率	増加	達成度(30年9月末)	—

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容(H30年度)	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇生教育事業 ・発達段階に応じた生教育の実施	生教育モデルに基づいた認定こども園、小学校、中学校での授業の実施率 →100%(H26 100%)	40%	・生教育モデルに基づき生教育授業を実施	A	(進捗状況) ・7月に中学校1回、8月に小学校1回、生教育授業を実施している。 ・11月に年長児、2月に小学校1回、3月に中学校1回を実施予定。 ・中学校と授業の評価をし、これを反映した内容に改善することができた。	保健福祉課
◇こころの健康づくり支援事業 ・学齢期・思春期に向けた心の健康づくりに関する知識の普及 ・関係機関と連携した相談支援体制の強化	学童・思春期に対する心の健康講座の実施率(中学校・高校・保護者) →100%(H25 高校生)	0%	・小中高校生に対して自殺予防に関連する講座を開催 ・保護者を対象とした自殺ゲートキーパー研修を開催	B	(進捗状況) ・発達支援センターが小中高校生に対して教育ジャーナリストを講師とした自殺予防に関連する講座を11月開催予定。	保健福祉課

	実施)				・発達支援センターと連携し、保護者を対象とした自殺ゲートキーパー研修を11月開催予定。	
◇家庭形成に向けた出会いの機会創出支援			・取組みの実施に応じて支援	B		企画財政課 商工観光課 農林課 農業委員会 事務局
◇子育てを通じた男女共同の推進支援		<p>・「マミーズプラザ講座Ⅰ」 年3回実施。参加人数 延べ7名(うち父親 延べ1名) ※4月、8月実施分</p> <p>・「カンガルー教室」 年4回実施 参加人数 延べ7名(うち父親 延べ1名) ※5月、8月実施分</p>	<p>・育児の喜びを実感できることを目指し「マミーズプラザ(妊娠期・講座Ⅰ)」「カンガルー教室(親子ふれあい体験)」を実施。</p> <p>※「◇出産や子育てにおける安心の確保」の実施予定事業「地域で育む子育てサロンの開設」に記載。</p>	B	<p>(進捗状況)</p> <p>・マミーズプラザ講座Ⅰを2月、カンガルー教室11月、2月に実施予定。</p> <p>(課題)</p> <p>・父親の参加者が少ないため、広報周知、個別勧奨を強化が必要。</p>	保健福祉課 幼児教育課

3 健康で安心して暮らせるまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(30年9月末)
健康寿命の延伸（不健康な期間の短縮）	【平均寿命－健康な期間の平均＝不健康な期間の平均】 (H25) 男性 81.84 歳－80.52 歳＝1.32 歳 (H25) 女性 86.88 歳－83.39 歳＝3.49 歳 ※厚生労働科学研究費補助金 「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」より	男性 1.0 歳 女性 3.0 歳	(厚生労働省の推定値、国民生活基礎調査を基に算定するため今年度は算出できず)
要介護認定率	17%（H27年6月現在）	19.0%（H32年第6期介護保険事業計画値20.16%）	19% / 100.0%

◇健康管理の習慣化を促進

KPI

乳がん・子宮がん検診受診率	100%	達成度	子宮 30.1% / 乳 34.1% ※H29実績
特定健診実施率	60%	達成度(30年9月末)	55.0% / 91.7%
肥満（BMI25以上）の人の割合	28%	達成度(30年9月末)	33.8% / 79.3%

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容（H30年度）	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇生活習慣病の発症・重症化予防の推進 ・特定健康未受診者への勧奨 ・健診結果説明会の充実 ・健診受診者へのスタンプポイント事業 ・食育に関する普及啓発促進	特定健康診査実施率→ 60%（H21～H25平均 42.6%） 特定保健指導実施率→ 65%（H21～H25平均 59.6%） 肥満（BMI25以上）の人の割合→ 28%（H25 29.3%）	H29 法定報告で 実施率 55.0% H29 法定報告で 実施率 55.6% H28 法定報告で 肥満割合 29.2% H29 年度推定で 肥満割合 33.8%	・特定健診及び20～30歳代の基本健診の無料化 ・地区担当による未受診勧奨訪問の充実 ・地区担当による健診結果説明や訪問指導の充実 ・特定健診委託先・協定病院の拡大 ・2次検査対象者拡大 ・健康マイレージ事業の継続 ・栄養コラムや健診会場の栄養改善に関する情報提供の充実 ・スマートライフかみしほろの普及（ロゴマークの活用） ・スマートライフ食生活（適度な食生活）推進（商工会との連携による野菜摂取の促進） ・上士幌町健康ポイント事業の活用 ・教育委員会との連携による運動推進	B	（進捗状況） ・スマートライフかみしほろのロゴマークを活用した普及啓発を強化している。 ・商工会と連携し野菜摂取をテーマにしたお弁当や総菜の販売・提供を推進した。 ・上士幌町健康ポイント事業を活用し、健診受診率向上や運動推進に努めている。 ・教育委員会との連携により健診後に運動プログラムが提供できている。 （課題） ・特定健診の協定病院を拡大したためデータ受領により受診者数増加を目指す。	保健福祉課
◇がん検診受診促進事業（医療との連携） ・乳がん予防キャンペーン講演会の開催 ・乳がん専用PET検診費用の助成	乳がん・子宮がん検診（好発年齢）受診率→100% (H26 19.8%) 胃がん・肺がん・大腸がん検診（好発年齢）受診率→ 20%（H26 17.0%）	H29 年度 子宮 30.1% 乳 34.1% 胃 18.8% 肺 16.4% 大腸 16.6%	・乳がん検診30歳代拡大（H29～） ・乳がん・子宮がん対象者へ個別案内 ・人間ドックの胃カメラ検診導入 ・胃がん・肺がん・大腸がん特定健診対象者へ個別案内 ・乳がん専用PET検診	B	（進捗状況） ・大腸がんイベント、個別通知を実施し、大腸がん受診人数が増加した。申込者数59人。 ・女性がんキャンペーン事業について、個別通知、看板設置など普及啓発を継続	保健福祉課

		※対象年齢（子宮 20～69 歳、乳、肺、大腸 40～69 歳、胃 50～69 歳） ※乳がん検診は、国報告に準じ、ペット検診を受診率に含まず。			している。	
◇心の健康づくり推進 ・相談体制の整備 ・メンタルヘルスや自殺予防に関する普及啓発	自殺による死亡者数→0人（年平均2人 ※H20～24）	1. 8人 ※H25～29（厚労省 HP）	・自殺予防対策行動計画理解促進のための普及啓発（広報、パネル展示、役場職員への情報提供） ・メンタルヘルス学習会（企業）の実施 ・心の相談日継続実施	B	（進捗状況） ・自殺予防対策行動計画を策定したため一般町民、関係者へ理解促進の機会を確保した。 ・11月にゲートキーパー研修会実施。	保健福祉課

◇地域包括ケアシステムの実現

KPI

小規模多機能型居宅介護利用者の登録者数	0人（H26末）→24人	達成度(30年9月末)	19人 / 79.2%
まるごと元気アッププログラムへの延参加人数	15,600人（月65人×48週×5年）	達成度(30年9月末)	6,598人 / 42.3%
地域活動支援センター等利用者数	13名（H26年 8名）	達成度(30年9月末)	13名 / 100.0%

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容（H30年度）	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇地域医療を支えるための医療従事者等の確保 ・医師・看護師等の確保対策支援 ◇24時間365日を支える医療・介護体制の整備 ・救急医療体制の充実 ・在宅支援診療所の整備 ・医療・介護の連携 ・セラピストによる在宅リハビリテーション支援の実施 ・発達障がい児へのリハビリアプローチ ・介護職員初任者研修実施事業	医療機関等の数の維持 診療所2カ所、歯科医院2カ所、調剤薬局2カ所 訪問診療件数 （町内医療機関2カ所合計） 訪問看護件数（医療・介護含む） 訪問・通所リハビリの利用者数の増加 医療介護連携にかかる協議会開催数→年3回（H28中に協議体設置）	維持できている 訪問診療件数 延 609件 訪問看護件数 （医療・介護含む） 延 171件 訪問リハビリ利用者 実12人 通所リハビリ利用者 実66人 協議体実施 H30未	・地域医療体制及び救急医療体制を維持するため、社会医療法人北斗上士幌クリニック運営の不採算分に対する補助を実施。 ・地域リハビリテーション支援事業により、要介護認定前の二次予防が必要な高齢者に対する理学療法士による訪問指導や介護予防事業での相談支援を推進し早期からの連携を図る。 ・上士幌調剤薬局や上士幌歯科クリニックによる訪問支援（居宅療養管理指導）の実施。 ・地域包括ケアセミナー実施 10月13日実施済み 関係機関職員や住民に対する講演及びグループワーク実施。出た意見を地域福祉連携会議や幹事会につなげて協議する。 ・介護職員初任者研修を、まちづくり会社に委託し実施。	B	（進捗状況） ・調剤薬局薬剤師の訪問による、服薬管理や相談指導が可能になった。 ・要支援状態で通所リハビリテーションの利用者が増加しており、早期予防は図られているが、状態が改善した際の移行場所がなく、他の通所サービスと循環が図られていない。 （課題） ・医師の高齢化は課題であり、24時間365日の救急医療体制を踏まえた地域医療の確立のため、安定的な医師体制の確保が必要。 ・デイケアに利用者が一極集中せず、デイサービスや地域のサロン、介護予防教室等との循環を図る必要がある。	保健福祉課
◇介護度の維持及び重度化防止のための介護サービスの充実と利用促進 ・居宅・施設・地域密着型サービスの充実 ・介護サービスの質の向上	介護度の改善率の上昇 施設サービス利用者の割合 23.2% (H26末) →維持 小規模多機能型居宅介護	要介護認定更新・区分変更者における介護度維持・改善率 85.7%	・有効期間内にサービス利用の実績がない対象者へは更新しないことを推奨。 ・認知症や終末期の利用者への密な支援により、在宅療養期間の延長を図る。	B	（進捗状況） ・要介護認定率は上昇傾向。介護度の維持、改善率は上昇傾向。認定率は高いが、重度者は少ない実態である。早期	保健福祉課

・利用者負担への支援	利用者の登録者数 0 人 (H26 末)→24 人	要介護認定率 19.0% 施設サービス利用者率 17.4% 小規模多機能型登録数 22 人			の認定により適切な支援へと繋がることで、重度化の予防が図られている。 ・施設サービス利用者率は減少傾向。 (課題) ・要介護認定以前の時点で、自立生活の継続に向けて、対象者の自発的な行動を促す必要がある。三愛サービスの拡大や、新たな予防支援策の検討が課題。	
◇介護予防の推進 ・健常時からの動機づけや生活習慣改善に向けた支援の強化 ・官・NPO・大学との協働事業の推進(健康づくり・生きがいづくり・人づくりに効果)	まると元気アッププログラムへの延参加人数 15,600 人(65 人×48 週×5 年)	延参加人数 6,598 人 達成率 42.3%	・年 1 回のお元気度測定会の実施により、心身機能低下がみられる方の早期発見、早期対応を行う。 ・高齢者実態調査で把握した二次予防事業対象者には、まる元運動教室や運動自主サークル、サロン等への積極的な参加を働きかける。	B	(進捗状況) ・9 月末現在の登録者は 74 人で定員まであと一人。・8 月末のお元気度測定会には、118 名が参加。シルバー学級生の他、一般参加者が増えてきている。 (課題) ・今後、参加希望があった時には待機者になる。クラスを増やすか検討が必要。	保健福祉課
◇認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指す ・普及啓発及びパンフレット作成 ・認知症初期集中支援チーム検討委員会の開催 ・認知症ケアパス作成 ・高齢者の見守り体制の構築	認知症施策にかかる協議体の設置及び協議会開催数→年 3 回 認知症初期集中支援チーム(専門サポート医等による対応 事例数)→年 3 事例 認知症ケア講演会の実施 認知症カフェの数→1 か所	・十勝広域 1 町主催 0 ・集中支援チーム 3 事例実施 ・講演会は 未実施 ・認知症カフェ 3 回実施	・集中支援チームによるサポート実施 4 事例 ・認知症に関する知識の普及啓発 認知症サポーター養成講座の実施 ・家族介護教室に大江病院の認知症専門看護師による講話実施 ・いっぷくしていく会及び専門職の協働による認知症カフェの実施 ・近隣自治体と共同連携による新たな徘徊見守りシステム(オレンジセーフティネット)の整備	B	(進捗状況) ・集中支援チームは有効活用できており、認知症の人やその家族のサポートができてきている。 ・認知症カフェの開催により、参加者の認知症に対する理解が深まっている。 ・オレンジセーフティネットは整備され試行段階である。 (課題) ・オレンジセーフティネットの登録者拡大に向け、認知症サポーター養成講座を活用した啓発活動の推進が課題。	保健福祉課
◇住民のニーズに適した隙間のない支援と住民による支えあい活動により高齢者が不安なく過ごせる環境づくりを目指す。 ・福祉協力員制度創設事業(高齢者等見守り体制の構築) ◇買い物や通院、見守りを支援する仕組みの構築 ・緊急通報システム ・除雪費助成事業 ・高齢者等福祉バスの運行 ・地域における互助活動推進(自主防災組織・サロン等) ・元気高齢者による買い物代行サービスの実施	小地域ネットワーク活動等地域活動の数→各行政区に 1 か所 生活支援にかかる協議体の設置及び協議会の開催数→年 2 回	・小地域ネットワーク活動実施行政区 5 ヶ所 ・生活支援体制整備に係る協議体の開催 未実施	・高齢者等福祉バスの運行 ・地域における互助活動推進 ・除雪費助成事業及び除雪ボランティア事業の実施	B	・高齢者等福祉バスの運行 (進捗状況) 市街地線に水曜日を追加した。 (課題) 火曜・金曜の便と同等程度の利用があるが、利用者が増えるようにならなければならない。上音更線、萩ヶ岡線の利用者がいないため、検討が必要である。 ・地域における互助活動推進 (進捗状況) 関係者や町内会とスムーズな情報共有を可能にする地域福祉支援システムを 11	保健福祉課

					<p>月より稼働予定。</p> <p>社会福祉協議会と共に、6区、7の1区町内会にて、要配慮者と実態調査の必要性を打ち合わせ、実施した。さらに3行政区について実施予定。</p> <p>(課題)</p> <p>町内会と互助について話し合いをもつことにより、互助に対する意識をもち始めているものの、行政依存の傾向は強い。災害発生時の時のためにも、緊急連絡先の把握は早急に行いたい。</p> <p>・除雪ボランティア事業</p> <p>(課題)</p> <p>ボランティアのなり手が少なく、参加者拡大が課題。</p>	
<p>◇高齢者の住まいの確保</p> <p>・高齢者見守り付安心住宅の整備</p> <p>・住宅改修やリフォーム費用の助成事業</p>		<p>住宅改修19件</p> <p>上乗せ改修1件</p>	<p>・高齢者の在宅生活を支えるため、必要な改修への支援</p> <p>・北団地の空き室をバリアフリー化し、高齢者が暮らしやすい住宅環境を整備。</p>	B	<p>(進捗状況)</p> <p>・福寿協会に近い北団地周辺を福祉エリアとして活用。空き室のバリアフリー化により、高齢者でも暮らしやすい環境を整える。11月までに2戸完成。</p> <p>(課題)</p> <p>・見守り機能については、今後関係機関と検討が必要。</p>	<p>保健福祉課</p> <p>建設課</p>
<p>◇権利擁護センター機能の充実</p> <p>・成年後見制度をはじめとする権利擁護事業の利用促進</p>	<p>市民後見人養成研修の受講者数6人(H26年度)→15人</p> <p>権利擁護センター(法人後見)の成年後見制度受任件数1人(H27年8月)→5人</p>	<p>市民後見人養成研修の受講者数8人(H29年度)</p> <p>権利擁護センター(法人後見)の成年後見制度受任件数2人</p>	<p>・市民後見人養成研修修了者の活動を支援する。</p> <p>・権利擁護に関する相談を受け、金銭管理が困難な高齢者等の生活を支援する。</p>	B	<p>(進捗状況)</p> <p>・判断能力に不安がある本人やその家族、ケアマネジャー、金融機関などから様々な権利擁護に関する相談を受け、地域包括支援センターや家庭裁判所等と協働して支援している。</p> <p>・認知症高齢者と経済的虐待を受けていた軽度精神発達障害者の金銭管理などを権利擁護センターが法人として2件受任している。</p> <p>(課題)</p> <p>権利擁護センター機能の周知・広報と関係機関との連携により、権利擁護を必要としている対象者への適切な対応。</p>	<p>保健福祉課</p>
<p>◇生きがいづくり</p> <p>・高齢者等の外出の機会を増やし、生きがいとなる活動の機会と働く場を確保する</p>	<p>65歳以上で週1回、各種活動の参加割合→70%</p> <p>福祉ボランティア登録人</p>	<p>・基本チェックリストで「週1回以上外出がある」人の割合</p>	<p>・介護支援ボランティアポイント事業の実施やボランティアミーティングの開催で活動の活性化を図る。</p> <p>・社協の地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーター</p>	B	<p>(進捗状況)</p> <p>・介護支援ボランティアポイント事業は、社協ボランティアセンターが運営し</p>	<p>保健福祉課</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の居場所づくり（地域サロンの開催・まちなかサロン・サークル活動・老人クラブ活動など） ・地域活動ボランティアの育成 ・元気高齢者の短時間就労の構築 	<p>数(社会福祉協議会所管)→80人 生きがい事業団(仮称)の設置→1か所</p>	<p>94.2% ・福祉ボランティア登録数 維持 ・介護支援ボランティアポイント事業登録者33人(1人減) ・上士幌町人材センター開設 1か所</p>	<p>ネーターと協働しながら、地域活動の活性化や互助活動を推進する。</p>		<p>事業は軌道に乗っている。 ・まちづくり会社により、今年5月に人材センターが開設され、徐々に登録者を増やしている。 (課題) ・ボランティア登録者の増加に向けた取り組みと受け入れ機関の拡大、活動内容の充実 ・高齢者の集いの場づくりに関しても、地域実態調査を進めながら地域に働きかけていく必要がある。</p>	
<p>◇障がい者雇用の促進・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業への就労の理解 ・障がい者福祉的就労の場の確保 <p>◇国等による障がい者就労施設等からの物品等の調達 の推進</p>	<p>障がい者就労継続支援B型事業所の設置→1か所</p> <p>物品等の調達目標 2,000千円(1,501千円 H26・1,571千円 H27) (現状:花苗・指定ごみ袋保管・配送業務・花壇整備・管理業務など)</p>	<p>就労継続支援B型事業所 1か所</p> <p>物品等の調達実績 2,545,236円 54.7%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就労継続支援B型事業所の運営費を補助する。 ・町が障がい者就労施設等から物品等を調達する。 平成30年度目標 4,650,000円 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・就労継続支援B型事業所の支援員(人材)の確保及び利用実績向上による安定的な事業所運営が課題。 ・物品調達の推進 工賃向上のため、施設等と協議し、実施可能な業務の確認作業を行う。 	保健福祉課
<p>◇町内障がい福祉サービス事業所(地域活動支援センター等)への通所利用促進</p>	<p>地域活動支援センター等 利用者数(H26年8名)→13名</p>	<p>利用者数 13人 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・潜在的な利用ニーズの把握に努める 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・潜在的な利用ニーズの把握のため、関係機関との連携が必要である。 	保健福祉課

4 移住定住による人口減少をくい止めるまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(30年9月末)
転入・転出入口	転出超過250人（2010～2014）	転入155人 転出90人（転入超過65人）	転入超過 254人 / 390. 8% (H27年度 48人、H28年度 67人、H29年度 75人 H30年度9月末64人)

◇ひとの流れをつくる多様な就労拠点の整備と地域住民による受け入れ体制の構築

KPI

移住相談件数に対する移住件数の割合 1. 5%（過去5年）	2. 0%/年	達成度(30年9月末) 4. 4% / 220. 0%
-------------------------------	---------	-----------------------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容（H30年度）	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇テレワークの推進			・H30年度4月より常設の「上士幌町お試しオフィス」を設置。（民間賃貸住宅を借り上げ）	A	（進捗状況） ・上期は8組22名の利用があった。	企画財政課
◇企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）の活用			・対象となる新規事業の実施にあわせ活用する。	C	（進捗状況） ・現在のところ活用できる事業がない。	企画財政課
◇町民が上士幌町の魅力を伝える事業（道の駅整備等と連携）		—	・道の駅実施設計の実施 ・ナイト高原牧場レストハウス建設 ・各施設運営主体の設立	A	（進捗状況） ・平成29年度の道の駅基本設計に基づき、実施設計を実施している。テナント募集を実施しており、設計に反映させる。今後、道の駅等整備推進委員会や町民説明会を開催する。 ・ナイト高原牧場レストハウスは建設工事中である。施設名称を「ナイトテラス」とし、平成31年4月27日先行オープン、6月3日全面オープンの宣伝活動を実施している。 ・各施設の運営主体である「上士幌町観光地域商社（株）karch（カチ）」が平成30年5月に設立した。道の駅実施設計への意見反映やナイトテラス運営準備を行っている。（株）karchは、平成30年7月に旅行代理業登録を完了し、電力小売り販売許可を申請中である。 （課題） ・町民をはじめ、関係機関、団体、事業者から様々な意見を頂きながら推進する必要がある。	商工観光課

◇かみしほろの発信力と価値の向上による交流と定住促進

KPI

イベント参加人数に対する相談件数割合 3.3%	4.0%/年	達成度(30年9月末)	15.8% / 395.0%			
ふるさと納税特典品として旅行商品を開発することによる入込客数	50組100人増加	達成度(30年9月末)	48人 / 48.0%			
特別町民証の発行による来訪者数	500組1,000人増加	達成度(30年9月末)	0人 / 0.0%			
実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容(H30年度)	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇移住定住プロモーションの推進	移住・二地域居住者数 15名(H26)→20名/年	9名	○移住定住プロモーションの推進 ・本気の移住相談会(東京 6/24) 29件 ・上士幌暮らしセミナー①(東京 9/2) 24件 合計 相談件数 53件 【今後の予定】 ・北海道暮らしフェア(大阪 10/6) ・北海道暮らしフェア(名古屋 10/7) ・4町合同暮らしセミナー、上士幌暮らしセミナー②(東京 11/10) ・北海道暮らしフェア(東京 11/11) ・上士幌まるごと見本市(東京 11/25) ・上士幌暮らしセミナー③(東京)	A	(進捗状況) 上半期に実施した北海道規模の事業では、本町への相談者は他自治体に比較して多くなっている。今後の事業においても「生活体験、訪問⇒移住」につなげる相談体制を整えていく。 (課題) ・移住・二地域居住者を増加させるために、継続的に上士幌町に住んだ際の優位性のPRを行っていく必要がある。	商工観光課
◇ふるさと納税寄付者との交流の推進			・H30年11月25日に東京プリンスホテルにて、寄附者1,000名を招き、「上士幌まるごと見本市2018」と題した交流イベントの実施をする。	A	(進捗状況) ・開催に向け、各団体、事業者との調整。寄附者への周知に向けた準備。	企画財政課
◇移住・定住相談の充実	移住相談件数 470件(H26)→600件(単年度)	204件 34.0%	移住相談件数 204件 ・イベント時相談件数 53件 ・上士幌コンシェルジュへの相談 151件	A	(進捗状況) ・プロモーション活動やホームページ・SNSの充実を図り、上士幌コンシェルジュへの相談件数増加に向けた取り組みを進めている。 (課題) ・移住相談件数を増加させ、移住・二地域居住者に結びつけるため、継続的に上士幌町に住んだ際の優位性のPRを行っていく必要がある。	商工観光課
◇ふるさと納税による交流人口増加対策			・ふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングにより「起業家支援プロジェクト」「移住交流プロジェクト」の2プロジェクトを開始し、支援いただいた寄附者に、オープンするお店の食事券、ぬかびら源泉クーポン、移住体験住宅の優先利用権などのインセンティブをつけ、交流人口の増加を図る。 ・H30年4月総務省からの受託事業に採択され、上士幌町へのふるさと納税寄附者を対象とした「応援人口増加プロジェクト」を7月より開始。	A	(進捗状況) ・「応援人口増加プロジェクト」の上期は、かみしほろ塾総合講座第I期へ寄附者2名をイベントスタッフとして招待した。	企画財政課

◇滞在や定住に柔軟に対応する多様な施設整備

KPI

生活体験住宅数	5棟（H26）→10棟（H31）	達成度(30年9月末) 9棟 / 90.0%
生活体験モニター参加者数	36組94名（H26）→50組150名（H31）	達成度(30年9月末) 20組 58名 / 38.7%

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容（H30年度）	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇生活体験住宅等の充実 ・生活体験住宅の推進 ・民間賃貸住宅を活用した定住支援 ・多様な生活体験住宅の整備		・定住促進賃貸住宅助成事業進捗率 70%	・生活体験住宅数 9棟 ※町設置～短期用3戸、中長期用4戸 NPO設置～中長期用2戸 ・生活体験モニター参加数 20組 58名 (前年同期 28組69名) ・定住促進賃貸住宅助成事業 88戸80,000千円(想定)	A	(進捗状況) ・生活体験者数が前年同期比で減少しているが、1組当たりの利用日数が伸びていることが要因である。 ・生活体験住宅は、旧上音更小教員住宅をリフォームし、10月から利用開始としている。 (課題) ・生活体験住宅を賃貸住宅で調整したが、1戸しか空きが無い状況であった。目標棟数確保に向けて、検討する必要がある。 (進捗状況) ・定住促進賃貸住宅助成事業 26棟79戸 71,280千円(事業申請済)	建設課 商工観光課

5 小さな拠点形成を目指すまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(30年9月末)
転入・転出入口	転出超過250人（2010～2014）	転入155人 転出90人（転入超過65人）	転入超過254人 / 390. 8% (H27年度 48人、H28年度 67人、H29年度 75人 H30年度9月末 64人)

◇まちの整体（公共施設再編によるコンパクト化推進）

KPI

公共施設再配置	計画に基づく推進	達成度(30年9月末)
---------	----------	-------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容（H30年度）	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇多機能型生涯学習センターの建設（H28）			・利用環境を向上させるための駐車場整備等の実施。	A	（進捗状況） ・「わか」西側に63台分の新たな駐車場を整備した。 （課題） ・暑さ対策等利用環境の整備を進める必要がある。	生涯学習課
◇老朽施設の解体撤去補助			・町内の老朽施設の解体撤去に係る費用に対して1件あたり上限50万円を補助する。予算額 800万円	A	（進捗状況） ・老朽施設の解体促進が図られている。 件数 7件 補助額 306万円 （課題） ・固定資産税納税通知書の発送と合わせて、補助制度概要を同封しているが、申請にいたらないケースもある。	町民課
◇小規模まちなか挿入型住宅整備			・昨年度建設した8戸のまちなか住宅の入居を進める	A	（進捗状況） ・公営住宅建替事業の対象となる西団地等の入居者へ周知し移転を進めた。8戸入居完了	建設課
◇子どもや若者のための居場所づくり			・サークル活動や会議、講演会、カフェくれよん等の利用の促進。 ・町民の利用と世代間交流を促すための取組の推進。	A	（進捗状況） ・新生涯学習センター「わか」におけるサークル活動や会議、講演会等の利用が進んでいる。また、カフェくれよんもメニューの改変等を行い営業している。 ・予約のない会議室等を自習等の場所として開放している。 ・「わか」屋内外で利用できる遊具の貸出しを行っている。 ・将棋クラブや町民有志による「みんな	生涯学習課

					の広場」の開催等により異世代交流が図られている。 (課題) ・今後も、町民の利用をさらに進め、異世代交流を図る必要がある。
--	--	--	--	--	---

◇移動の利便性向上

KPI

農村部から市街地までの利便性に対する充足度（H27調査）	向上	達成度(30年9月末)
------------------------------	----	-------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容（H30年度）	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇地域交通ネットワークの構築			・地域公共交通のあり方検討の実施 町の公共交通の現状と課題を把握し、地域交通ネットワーク（ソフト展開）の構築を進める。	A	(進捗状況) ・上士幌町交通ターミナルを4月20日より供用開始。 路線バス、町内循環バス、スクールバス、都市間バス（帯広—旭川）の停留所としてだけでなく、昼食や休憩場所として利用されている。 ※開館時間6:00～21:00 4/20～9/30 利用者 5,063人 ただし、4/20～8/3は9:00～17:00のみの集計。 (課題) ・施設運営開始間もないことから、細かな課題が生じると思われるが、都度対応していく。 ・施設での交流や近隣公共施設や商店街への誘導などソフト面での充実を図っていく必要がある。 ・今後整備予定の道の駅との相互連携に向けた検討が必要。	企画財政課
◇国道等主要道路の整備拡充による第2次・第3次医療への移動時間の短縮	(関係機関に要請)		・整備拡充の実現に向け、引き続き要望等を行った。	A	(進捗状況) 自由民主党政策懇談会及び国・北海道に対する事業要望項目として、国道241号片側2車線化を要望している。	企画財政課

◇地域活性化拠点の整備

K P I

新規雇用人数	15人	達成度(30年9月末)
--------	-----	-------------

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容(H30年度)	評価	進捗状況及び課題	担当課等
◇重点道の駅「仮称バルーン」整備		—	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅実施設計の実施 ナイタイ高原牧場レストハウス建設 各施設運営主体の設立 	A	<p>(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の道の駅基本設計に基づき、実施設計を実施している。テナント募集を実施しており、設計に反映させる。今後、道の駅等整備推進委員会や町民説明会を開催する。 ナイタイ高原牧場レストハウスは建設工事中である。施設名称を「ナイタイテラス」とし、平成31年4月27日先行オープン、6月3日全面オープンの宣伝活動を実施している。 各施設の運営主体である「上士幌町観光地域商社(株)karch(カチ)」を平成30年5月に設立した。道の駅実施設計への意見反映やナイタイテラス運営準備を行っている。(株)karchは、平成30年7月に旅行代理業登録を完了し、電力小売り販売許可を申請中である。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 町民をはじめ、関係機関、団体、事業者から様々な意見を頂きながら推進する必要がある。 	商工観光課

プラス・ワン 上士幌町創生包括プロジェクト 上士幌版生涯活躍のまち

数値目標	基準値	目標値（H31まで5年間）	達成度(30年9月末)
上士幌版生涯活躍のまちによる移住	—	30世帯50人	14人 / 28.0%

実施予定事業	事業目標	達成度(30年9月末)	取組内容（H30年度）	評価	進捗状況及び課題	担当課等
<p>◇上士幌版生涯活躍のまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大都市高齢者の地方移住支援 ・地域社会との協働、スキルや知見の地域還元推進 ・多様なプログラムや自主活動の構築により健康でアクティブな生活の実現 ・地域包括ケアによる継続的なケアの提供 	<p>中高年齢者の移住</p> <p>30世帯50人</p>	<p>14人</p> <p>28%</p>	<p>・生涯活躍のまちの取組みを推進する。</p> <p>(主な取組み)</p> <p>①地域包括ケアの充実</p> <p>ア 介護人材の養成・確保(初任者研修実施)</p> <p>イ 地域包括ケア充実に向けた提言</p> <p>ウ 障がい者グループホーム及び障がい者就労事業検討</p> <p>エ 健康づくり促進対策事業実施(健康ポイント事業)</p> <p>②生涯活躍の場の創設</p> <p>ア かみしほろ人材センターの運営 短時間・簡易な仕事を請け負う人材センター運営</p> <p>イ 生涯活躍かみしほろ塾の運営 講演・実践を通じて町独自の学習機会を提供するとともに、次年度以降の講座内容を検討 総合講座、専門講座(写真・料理)、起業塾</p> <p>ウ まちなか空き家空き地活用検討 移住者等が起業にチャレンジする拠点の整備を検討</p> <p>⑤移住希望者募集</p> <p>町や関係団体が実施するセミナー・移住相談会への参加</p> <p>中高年齢者向け住宅のニーズ調査</p> <p>移住希望者に対する仕事や住まいのマッチング支援</p>	A	<p>(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員初任者研修 12名の受講者により実施中 ・地域包括ケア充実に向けた提言 外部専門家に依頼しながら、一般町民と専門職によるグループワークとセミナーを開催して、現状確認や課題の明確化に取り組んでいる。 ・障がい者グループホーム等検討 道内施設への訪問等により、本町での実現に向けた提案を検討中 ・健康ポイント事業 7月から実施中、約300名参加 ・人材センター 会員15名、受注28件 ・生涯活躍かみしほろ塾 7月から継続的に講座を開催中 総合講座 第1期7/21-22 延べ375名 写真講座 第1回7/12-14 延べ40名 料理講座 第1回7/18 22名 第2回9/19 15名 起業塾 STEP1 7/28-29 15名 ・空き家空き地活用検討 ワークショップ2回実施 8/23,9/18 ・移住希望者募集 セミナー等参加2回(課題) 引き続きまちづくり会社と連携の上、取組を進める。 	<p>企画財政課</p> <p>保健福祉課</p>

